



小山台

学校だより

1月号

令和5年1月13日

横浜市立 小山台小学校

星空に願いを

校長 椎名 哲也

朝の冷え込みが、また一段と厳しくなってきました。例年よりも少し長かった冬休み。家族と共に温かな時間を過ごし、子どもたちも多くの思い出を作ることができたのではないかと思います。先日、学校の正門から見える富士山の白く輝く部分がさらに増えてきていることに気付きました。冬も本番、今年度も残すところあと3ヶ月です。子どもたちがいつも元気に登校できることを願い、また、まだ十分に収束しない感染症への対応をしっかり行いながら、気を引き締めて子どもたちと共に歩んでいこうと思っています。今後も引き続き、ご理解ご協力をお願いいたします。



さて、以前もお話しさせていただいたかもしれませんが、学生時代は天体観測が趣味で、丹沢の麓に出かけて空が明るくなるまで仲間と共に活動していました。寒さが増すこの時期、月も星も白く輝き、観測している自分が逆に月や星から見つめられているような感覚を覚えることもありました。その透き通った白い光の前では、素直な気持ちにならざるを得ず、思わず月や星に願い事をしてしまうようになるのは私だけではないように思います。もしも願いが叶うなら、卯年の星空に向かって願うことは二つ。

まずは、いつまでも子どもたちと共に健康で過ごさせてください…です。登下校の正門で元気に挨拶してくれる子どもたち。教室でも元気で明るく、授業に臨んでいます。廊下に展示された様々な作品からは、子どもたち一人ひとりの思いが伝わってきました。子どもたちの純真さ・誠実さを見習いながら、これからも子どもたちと共に歩んでいきたいと思っています。



二つ目は、早く世の中が落ち着いて、小山台小学校と保護者・地域の皆さんとのかかわりがより良く進むことです。「持続可能な社会の創り手を育む教育」「質の高い学び、主体的・対話的で深い学び」を推進していくためには友達・保護者・地域の方々など多くの人とのかかわりが支えとなります。これについては星空にお願いするだけでなく、実際に学校運営として工夫していくこととなりますので、多くの皆様にご支援を賜りたいと思います。

今月から卯年が始まりました。飛び跳ねる姿から「向上」を象徴するものとして親しまれてきたウサギですが、卯年は新しいことに挑戦する最適な年であるとも言われています。授業の中でタブレット端末が活用されるようになるなど、最近の授業風景にも変化が見られるようになってきました。様々なことに挑戦し努力を積み重ねてきた子どもたちを、今後も支え続けていただきますようお願いいたします。



子どもたちの学校生活の様子については、小山台小学校のホームページ「学校日記」に随時掲載しています。ぜひご覧ください。

